

第1回質問表【抜粋】

※回答方法欄

会議：質問を会議で紹介、回答したもの

質問一覧表：会議では、時間の関係で紹介できなかったもの

	分類	関連資料 番号	質問	回答	回答方法
6	保育園・幼稚園	11	預かり保育のニーズは高いと感じるが、預かり保育を実施しない公立園はなぜ行わないのか理由を知りたい。（落四幼稚園など）	現在、地域的なバランスをみて4園（市谷・鶴巻・花園・西戸山幼稚園）で実施しています。平成28年度の実績では、一日平均6人から11人ほどとなっており、現時点では実施園を拡大する状況ではないと判断しています。	質問 一覧表
7	保育園・幼稚園	11	また、6に関連し、落四幼稚園はなぜ定員割れしているのか。区として、その理由をきちんと把握できているのか。	落合地域には区立幼稚園のほかにも私立幼稚園や認定こども園などの幼児教育施設が多く、保護者が選択できる環境が整っているため、各園の教育・保育内容などから保護者が選択した結果であると考えています。（落合第四幼稚園の定員割れは平成26年度から発生しています。）	質問 一覧表
8	保育園・幼稚園	6-2	ほっぺるランドは昨年板橋区内でうつぶせ寝による死亡事故が発生し、保護者の話では事故後の対応など目に余るものがあったと聴いている。また、今年度も板橋区内で一気に4園開園している。また園長の募集も昨年はホームページで行っていた。急拡大を図る事業者、それだけを請け負える資質を備えた園長候補が何名居るのか分からないが、保育の質を考えるとやはりリスクが高いと感じる。そのような事業者を選んだ背景・理由について詳細に知りたい。また、開設予定の園の園長は現場経験何年の人なのか教えて欲しい。	区では賃貸物件を活用した保育所の整備を進めています。整備地域を示して公募し、応募があった事業者について、児童福祉法に基づく各基準や国、都の関係通知との適合性を確認するほか、ヒアリングや既設園の視察を行うことで適切に保育を担うことのできる事業者であるかを審査します。ご質問にある板橋区での死亡事故については、発生後すぐに事業者から報告がありました。また、板橋区や東京都にも問い合わせをするなど、区として情報収集を行い、呼吸チェックが行われていたことは確認しています。また、同事業者が運営する区内の保育施設に対しても緊急で調査を行い、呼吸チェックを定期的に行うなど、子どもの安全に配慮した保育が行われていることを確認しています。なお、板橋区の事故については、現在も調査中であると聞いており、事故の原因について特定されているわけではありません。こうしたことから、当該事業者を選定の対象から除外はしなかったものです。 また、新規開設園の園長候補者は、6年程度同事業者で勤務経験のある保育士です。	会議

	分類	関連資料 番号	質問	回答	回答方法
14	保育園・幼稚園	なし	新宿区でも保育園の園庭保有率が減少している事が「保育園を考える親の会」の調査で明らかとなっている。園庭の無い保育園では、複数の種目で運動能力が全国平均を下回る事が研究結果として明らかとなっている。同様に園舎が大きく、園庭が広い園の方が子どもの運動能力が高くなることも分かっている。これは子どもの権利の一つ『育つ権利』を侵害していることと同義である。数の確保と併せ質の確保を行うべきと考えるが、どのように図っていく予定なのか説明してほしい。	敷地内に園庭を持たない私立園に対し、園庭のある区立園では、交流保育の際に園庭を開放する、水遊びの場所として提供する取組を行っています。また、教育委員会と協力し、運動会の会場として校庭を借用できるように調整する取組も行っております。引き続き、限られた資源を活用しながら支援を続けて、質の確保に繋げていきます。	質問 一覧表
16	学童	8・9	保育園と同書式で学童の歳児別定員変遷、利用人数について教えて欲しい。	学童クラブについて、歳児別定員は定めていません。	質問 一覧表
17	学童	8・10	保育園の定員はH27：5811名、H29：7056名と+1195名拡大しているが、学童はH27：1465名、H29：1485名と+20名である。これはおかしいのではないか。（利用実態はH29：1671名なので実態に即していない＝詰め込み保育が行われている）	定員を大きく上回る学童クラブについては、出席予定児童数の状況も見ながら、児童館内に優先的に利用できるスペースを確保することを考えていますが、必要に応じて、学童クラブの確保方策も検討していきます。	質問 一覧表
18	学童	8・10	学童のH31年度の確保数は1479名（H29より-6名）となっているが、既に1671名の利用があるのだから、早急に数の見直しを行うべき。	同上	質問 一覧表
19	学童	10	機能拡充放課後子どもひろば（通称：ひろばプラス）は学童入所と同じ要件を満たさないと利用できない。つまりは、学童需要はH29で1671+493=2164必要である。その定員分の学童定員を設ける事が先決なのではないか。（学童待機児童は679名と読み替える事も出来る。）	学童クラブは、保護者に代わって子どもを保護・育成する機能を持っています。「ひろばプラス」は、学校施設を活用し、遊びと学びの支援を行う放課後子どもひろばの特徴を活かしながら、おやつや出欠管理、連絡帳等、学童クラブで行っている保護機能を付加した事業です。両事業とも利用者アンケートで高い評価を得ており、子どもの成長段階や保護者の状況等に応じた、多様な選択肢を提供することが大切であると考えています。	質問 一覧表

	分類	関連資料 番号	質問	回答	回答方法
26	学童	10	放課後子ども総合プランでは余裕教室の活用した実施促進が言われている。各学校で徹底的に余裕教室の洗い出しをすべきだが、そこはどうなっているのか。教育委員会に尋ねただけでは正確な数の把握は出来ないと思われるので、実地調査員を派遣し、放課後の空き教室の把握に努めてはどうか。	学校内学童クラブについても、必要に応じて放課後の空き教室の新たな借用を検討していきますが、実地調査員の派遣は考えていません。	質問 一覧表
29	学童	10	「学校を核とした地域力強化プラン」を基に地域協働学校事業の推進が図られている。「地域力強化プラン」では様々な立場の人が繋がり子どもを支える事となっている。そんな中、なぜ学校内学童クラブの運営協議会には学校関係者が委員として入らないのか、その明確な理由を知りたい。	学校内学童クラブの運営協議会の委員に、学校関係者（スクールコーディネーター等）が入っている場合もあります。	質問 一覧表
33	病児保育	計画量の 見直し	31と関連し、区の病児保育を利用出来ず、病児シッター等を利用した際には、区の病児保育利用料を超えた分を補助として出すべきではないか。（参考：以前区の病児保育を利用出来ず、病児シッターを利用したところ、2800円/時間×7時間＋手配料3000円＋交通費＝23,000円/日となった経験あり。対して区内病児保育は4000円/日。）	現状では、病児保育のニーズ量に対応できる体制を確保できていると考えています。 しかし、利用の希望が集中するために利用できなかったという声もあり、より利用しやすい制度とするために、居宅訪問型等の利用形態も含めて研究していきます。	会議
36	その他	事業計画 p52	スマートフォンアプリについて、開発費、年回の維持費を教えてください。ストアの評価を見るとあまり良くない＆私も活用していたが使いにくかったので、途中で削除した。改良の予定はあるのか。また、実際に活用している区民からはどのようにfeedbackを貰い、アプリの改良に生かしているのか教えてください。	しんじゅく子育てナビについて、開発経費は委託料が 2,413,800円です。年間の保守に係る経費は583,200円です。一括保守契約のため、しんじゅくノートで公開している子育て応援ショップ等のホームページの保守も含まれています。アプリ改良の予定は、今のところありません。	質問 一覧表

※P22とP52は「新宿区次世代育成支援計画（第三期） 新宿区子ども・子育て支援事業計画 平成27年度～平成31年度」冊子のページです。